

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2026年4月20日 (第1.0版)

| | |
|---------------------|---|
| 承認番号 | 26017 |
| 課題名 | 生体情報モニターアラームのナースコール連動の導入と評価 |
| 研究期間 | 西暦2026年5月29日(実施許可日)～2028年3月31日 |
| 研究の対象 | 2024年7月1日～7月28日、2025年2月1日～2月28日に、当院の一般病棟のうち10病棟(4階西、4階東、5階西、5階東、6階西、6階東、7階西、7階東、8階西、10階東)に入院していた方 |
| 利用する試料・情報の種類 | <input checked="" type="checkbox"/> 診療情報(詳細：ナースコールの日時、種類、応答時間、心電図モニターのアラーム履歴) <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織(対象臓器等名：) <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他 () |
| 利用予定日 | 開始日：実施許可日から1ヵ月後 |
| 試料・情報の管理について責任を有する者 | 旭川医科大学 学長 西川 祐司 |
| 研究の意義、目的 | <p>ナースコールは、入院中に患者さんが看護師を呼ぶための大切な手段のひとつです。現在のナースコールは、患者さんからの呼び出しだけでなく、看護師や医師からの緊急連絡、転倒を防ぐためのセンサー、心電図モニターの異常を知らせる通知など、さまざまな情報を看護師に伝える仕組みがあります。</p> <p>心電図モニターの通知は、患者さんの体の状態に異常が起きた可能性を知らせる重要なものです。当院では2024年から、心電図モニターの異常をナースコールと連動させ、ナースステーションに看護師がいない場合でも、看護師が持っている電話に通知が届くようにしています。これにより、より早く対応できるようになりました。</p> <p>一方で、この仕組みによりナースコールの通知回数が増え、対応が遅れてしまう可能性も考えられるようになりました。そのため、当院では医師・看護師・臨床工学技士などの多職種で話し合いを行い、通知の設定を見直しました。</p> <p>本研究では、ナースコールの回数や心電図モニターの通知の状況を調べ、より安全で適切なナースコールの設定になっているかを確認することを目的としています。</p> |
| 研究の方法 | <p>1. 期間</p> <p>ナースコールの設定を変更する前と後の、次の2つの期間について調べます。</p> <p>期間A：2024年7月1日～7月28日</p> <p>期間B：2025年2月1日～2月28日</p> <p>2. 方法</p> <p>本研究では通常の診療や看護に新たな対応や検査を加えることはありません。すでに記録されているナースコールのデータを用いて調査を行います。</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>また、お名前や診察券番号など、個人が分かる情報は使用しません。</p> <p>代わりに、研究のための番号をつけてデータを扱い、この番号から個人が特定されることはありません。</p> <p>調査する内容は、次の点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナースコールが鳴った時間や種類、看護師が応答するまでの時間 ・ナースコールと連動して鳴った心電図モニターの通知について、その時間や種類、応答までの時間 <p>これらを、設定変更の前後で比べて調べます。</p> |
| その他 | |
| お問い合わせ先 | <p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先 研究責任者 旭川医科大学病院 看護部 中村智美 連絡先：電話番号 0166-69-3201（直通）</p> |